



夏休みが終わり、子どもたちの声が沢山のにぎやかな活気のある園が戻ってきました。久しぶりにお友達の顔を見て、嬉しそうにしている子どもたちです。

猛暑と熱帯夜が続いていると夏の疲れが出てきます。昼間はこまめに水分補給を行い、夜はぐっすり眠って体力を回復できるようにしましょう。



防災週間(8月30日～9月5日)

9月1日は防災の日、9月9日は救急の日です。もしもの時に備え、非常食や水、ラジオ、懐中電灯、電池などを用意しておきましょう。

園では毎月避難訓練を行っていますが、おうちでもお子さんに火事や地震が起こった場合のように行動すべきか、煙を吸わずに逃げる方法や地震の時は机の下に隠れるなど日頃から繰り返し話して緊急時に備えるようにしましょう。

おうちの中にも事故やけがを招く危険な物がたくさんあります。事故を防ぐために確認をしてみましょう。

- ・子どもの手の届く場所に置いてはいけない物
(薬、洗剤、たばこ、ライター、ポット、炊飯器、包丁などの刃物、針、子どもが飲み込める大きさの細かい物など)
- ・踏み台になる物はベランダに置かない
- ・コンセントなどをいたずらできないようにする
- ・遊び食べに注意する(食べ物が喉に詰まってしまうことがある)
- ・浴室には子ども1人で勝手に入れないよう工夫する



溶連菌 感染症



溶連菌(ようれんきん)感染症とは、溶血性連鎖球菌という細菌による感染症で、喉の痛みを伴う咽頭炎の2割程度がこの菌が原因と言われています。発熱で気付かれることが多く、咳やくしゃみなどでうつります。



2～5日の潜伏期間の後に喉の痛みや扁桃腺が腫れる症状から始まり、頭痛、体のだるさなどかぜの症状と38～39℃の高熱が出ます。発熱から2～3日経つと首や胸、手首、足首に粟粒状の発疹が現れて強いかゆみを伴い、やがて全身に広がります。同時に舌にイチゴ状の小さくて赤いブツブツとした発疹が現れます。

溶連菌感染症と診断されたら、抗生物質を7～10日程服用します。早い時期から服用する程治療効果があると言われています。発症から5日程経つと、熱も下がり発疹や喉の痛みも治まります。予防には、手洗いや消毒が大切です。

熱がある時は水分補給を十分に行いましょう。喉の痛みがあるため、熱い物や刺激物、柑橘系の果物は避けましょう。回復後には、まれに急性腎炎やリウマチ熱にかかることがあります。症状が消えても医師の指示があるまでは、薬の服用をやめないようにしましょう。

